

blousonite.com

多文化共生について



9月の議会では多文化共生について、質問をしました。総務省のホームページを見ると多文化共生について「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく」と書かれています。なぜこのような政策を国が推進しているかといえば、再び総務省のホームページを見ると「外国人登録者数は平成16年末現在で約200万人と、この10年間で約1.5倍となり、今後のグローバル化の進展及び人口減少傾向を勘案すると、外国人住民の更なる増加が予想される」となっています。また、外国人労働者が、100万人を超えたという報道がなされています。

地理的な状況を考えれば、朝日町は名古屋市と四日市市の間にあります。現在留学生が名古屋市や四日市市でも増加しています。日本で正規労働者として働く場合は、就労ビザが必要になります。留学生は就労ビザを持っていない場合が多いのですが、それであってもアルバイトとしてであれば、働くことができます。就労ビザを持っている人の方が、平均して日本語への理解が高いです。今後課題と考えられているのは、日本語への理解が低い外国人への対応です。朝日町にとっては、今日、明日の直近の問題ではありませんが、無関係ではいられない問題です。

今回の一般質問での多文化共生の焦点は、外国人への朝日町の情報の周知と共有の方法、税金と料金、ゴミなどの生活の問題、小中学校での指導、守ってもらえない時の対応の5つです。また、現在朝日町が対応している言語以外の言語を話し外国人が増えています。行政としては、今後増加する可能性のある言語に対して、今以上に多言語に取り組む姿勢を見せており、また、習慣なども配慮しており、できる範囲で努力はされていると思います。今後は、更に日本の文化や言語への理解を深めてもらえるような政策が必要になるでしょう。

しかし、その一方で、世界を見ると必ずしも、その政策が問題なく実行されているとは思えません。ヨーロッパでは、異文化との関係で摩擦が起こり国政に大きな影響が出ています。今後日本が取るべき道は、日本のルールを明白に示すべきことと考えています。多文化共生社会において大切なことは、外国の文化を単純に受容するだけではなくて、日本の文化やルールを理解してもらうという双方向の努力です。それがないと外国人からも日本人からも理解と信頼が得られません。多文化共生について市民運動などをされている人を見ると、この視点が欠落しているように思えることが多々あります。

多文化共生について

表面

多文化共生について、書きました。



役場

9月議会の質問

裏面

多文化共生について質問をしました。



議場

地域パトロールの日時

日時 毎月第二火曜日
(雨天の場合は中止)

ビスケットの日程

体験教室を中心に行っています。

編集後記

八王子祭に参加しました。責任者の一人なので大変でした。八王子祭は、小向自治区の祭ですが、朝日町の町指定の無形文化財と言う位置付けになっています。無形文化財なっていると少なくとも町の単なる祭というわけではなく感じるはずです。

テレビ局も取材に来ていました。「朝日町」と言って、町外にイメージを出せるものは少ないと思いますが、朝日町において日本全国だけではなく、世界にも発信できる可能性のある、数少ない資源だと考えています。

写真は、自分が写っている写真を4つほど並べたものです。